

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）の説明書・同意書

【目的・方法】

食道・胃・十二指腸の疾患を診断するための検査です。

まず、鼻とのどを麻酔してから（局所麻酔）、鼻腔あるいは口腔から内視鏡を挿入します。そして空気で膨らませながら食道・胃・十二指腸を観察します。必要に応じて、粘膜組織の採取を行います。

局所麻酔などの検査前処置に10～15分ほどかかります。内視鏡検査自体は3～4分ほどで終了します。

本検査による癌の発見率は0.5～1%（200人に1～2人）です。

【合併症】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起これば、本検査においても下記の合併症が報告されています（日本消化器内視鏡学会雑誌 2016; 58: 1466-91）。医療機関においては、検査前にこの合併症について患者様にお伝えする義務があります。

- ① 内視鏡が鼻腔を通過するときに伴う鼻出血⇒約 10 人に 1 人の割合で鼻腔が狭い人がおられ、その場合は、鼻出血を防ぐために鼻腔からではなく、口腔からの内視鏡挿入に切り替えて行うことがあります。
- ② 局所麻酔によるアレルギー反応（気分が悪くなる、蕁麻疹がでる、血圧が下がる、など）⇒まれです。胃カメラでは、キシロカインという局所麻酔を使用します。歯科治療などでもよく使用されるお薬です。今までに歯科治療の麻酔で気分が悪くされた経験がある方は検査前にスタッフあるいは医師にお知らせ下さい。
- ③ 内視鏡による消化管粘膜の重篤な損傷（輸血を必要とする出血・緊急手術を必要とする穿孔）⇒極めてまれです。このような合併症の発生頻度は0.005%（2万人に1人）と報告されています。
* 当院の医師によるこれまでの検査件数（胃カメラ約3万件）の中でこのような経験はありません。しかし、万が一このような合併症が生じた場合は、適切な処置を行い、責任を持って入院治療施設への転送手配を致します。

【目的と方法】、【合併症】に関する上記の記載事項を読み、説明を受け、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）を受けることに同意します。

年 月 日

患者様もしくは代理人様氏名（署名）

（代理人様の場合は患者様との続柄も記載して下さい。）

むらたファミリークリニック

年 月 日

院長 村田 真野